

秋から冬に行くキタムラサキウニの養殖技術開発(重点研究: R4-6)

共同研究機関: 工業試験場、北海道大学、北海道立工業技術センター、(株)北三陸ファクトリー札幌(営)

協力機関: ひやま漁業協同組合大成支所、檜山地区水産技術普及指導所瀬棚支所、せたな町

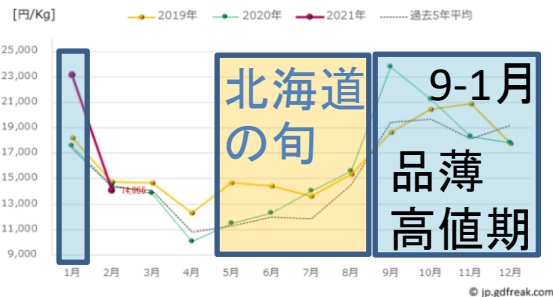
研究の背景

- 北海道日本海海域は漁業生産が低迷。
- ウニの取引価格は、秋-冬は供給少なく高値。

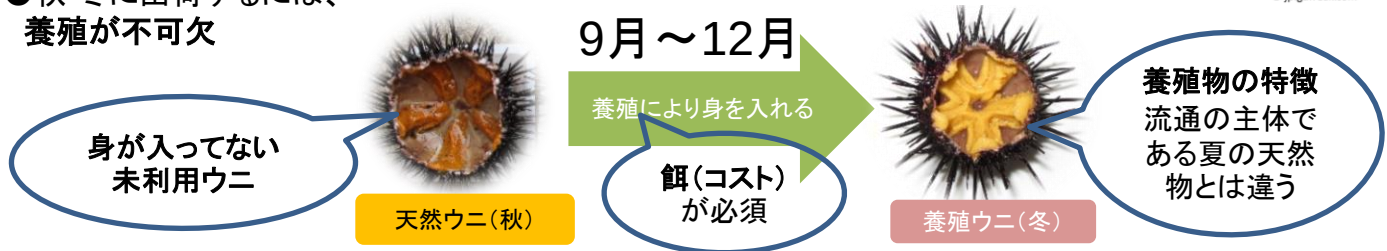
課題の所在

- 日本海沿岸に身入り不良の未利用ウニが存在
- 秋-冬に出荷するには、
養殖が不可欠

国産ウニの月別平均卸売価格



豊洲市場の市況



【目的】秋から冬に行く道産ウニ養殖漁業の確立に不可欠な飼料コスト低減法と養殖ウニの特徴に合わせた保存・加工方法を開発し、事業採算性を評価する。

研究の内容

①養殖用飼料コストの低減技術開発

海中での揺れ・流れも評価

餌の脱落を50%以下に

ウニが摂餌不能な流れは?

現場導入が進む浜中式円筒カゴ

水の流れ+カゴの揺れ=カゴ内の流れ

配合飼料が崩壊・脱落する流れは?

配合飼料の形、大きさ、硬さのパターニング

海中での飼料ロス抑制技術と養殖適地判断技術を開発する。

②養殖ウニの特徴に合わせた利用方法の開発

天然ウニ(夏)

養殖ウニ(冬)

水分含量
平均69%

水分含量
平均74%

水分を天然並に↓

水槽試験で基礎技術開発済み(北大)

養殖ウニの可食部の水分量調整法および特徴に合わせた保存・加工技術を開発する。

③秋-冬に行くキタムラサキウニ養殖の事業性評価

漁業者

加工業者



成果の活用

●新たな養殖キタムラサキウニ生産技術が日本海の漁業関係機関に活用され、生産額が現状の7.7億円から11.7億円へ増加することが見込まれる。

秋から冬にキタムラサキウニを試験的に生産・流通して、事業性を評価する。